

会 議 録

会議録	令和8年度 第2回豊田市公共交通会議
次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 豊田市地域公共交通計画の前計画及び令和7年度の実績について<協議> (2) 香嵐渓渋滞対策における令和7年度の実況報告及び令和8年度の実組について<報告> (3) 香嵐渓もみじまつり期間におけるとよたおいでんバスの運行変更について (①旭・足助線 ②稲武・足助線 ③さなげ・足助線) <協議> 3 その他 4 連絡事項 5 閉会
日 時	令和8年8月24日(月) 午後3時～午後4時30分
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室
出席者 (敬称略)	【委 員】 松本 幸正 (名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授)【副会長】 後藤 哲也 (社会福祉法人豊田市社会福祉協議会常務理事) 勝野 隆 (豊田市高齢者クラブ連合会副会長) 釘宮 順子 (豊田市ボランティア連絡協議会会長) 宮市 達也 (豊田商工会議所専務理事)【監事】 内藤 真一 (名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当主務) 西脇 武志 (名鉄バス株式会社首席交通企画官兼運輸本部地域交通部地域交通課長)(代理 上原) 横田 太 (豊栄交通株式会社専務取締役) 寺澤 秀樹 (愛知環状鉄道株式会社総務部次長兼経営企画課長) 小島 康史 (愛知県タクシー協会豊田支部長) 小林 裕之 (公益社団法人愛知県バス協会専務理事) 中村 雄太 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事) 高橋 治 (国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所計画課長) 原田 光一郎 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)(代理 山田) 高臣 綾子 (愛知県都市・交通局交通対策課担当課長)(代理 岩川) 加藤 正治 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課長) 小林 利光 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課長) 阿部 雄一郎 (愛知県警察豊田警察署交通課長)(代理 原) 園生 賢一 (愛知県警察足助警察署交通課長) 鈴木 学 (豊田市副市長)【会長】 角谷 元 (豊田市都市整備部長) 【欠 席】 山岡 俊一 (豊田工業高等専門学校環境都市工学科教授) 天野 正直 (豊田市区長会理事) 【事務局】 豊田市 都市整備部 交通政策課 地域活躍部 足助支所 企画政策部 未来都市推進課
資 料	1 次第 2 令和8年度 第2回豊田市公共交通会議 会議資料

(1) 豊田市地域公共交通計画の前計画及び令和7年度の実績について〈協議〉

- 事務局 【協議1】に基づき説明。
- 委員 市の財政負担額の割合としては、地域バスと地域タクシーのどちらが多いか。その割合によって、取り組む改善内容も変わってくると思う。
- 事務局 地域バスの方が割合は大きい。地域バスの運行に関する経費を改善することが、市の財政負担額にも大きく影響すると考えている。
- 委員 地域バスについて、今後の人口減少に対する手立てはあるか。
- 事務局 また、おでかけバス70の利用者は増加しているとのことだが、今後も高齢者は増加していくのもっとPRをしてはどうか。
- 委員 今後の人口減少対策は、各地区の地域バス運営協議会と利用促進案を考えていくとともに、地域バスのみではなく基幹バスも含めた市域全体の再編も含めて検討していく。おでかけバス70については、購入者に対してクーポン券を配布して利用促進を図っており、さらに周知を進めていきたい。
- 委員 豊田市バス停の西口集約について、利用者の利便性の面で変化はあったか。
- 事務局 豊田市バス停の西口集約に関しては、バス乗り場が1か所に集まったことで、鉄道や他のバス路線への乗り換えの利便性は向上したといえる。また、バス停の上がペデストリアンデッキであるため、雨天時に濡れにくいなど待ち合い環境も向上している。バス停の集約によって複数の路線が同じ場所から発着することになったため、当初慣れるまでは目的のバスを探すのに時間がかかるという声はあったものの、現状困っているという声は聞いていない。豊田市バス停に設置しているデジタルサイネージを活用した案内も利便性向上に繋がっていると考えている。
- 委員 豊田市バス停の待ち合い用の椅子は不足していないか。
- 事務局 豊田市バス停の両サイドに待ち合い用の椅子を設置している。常に状況を把握しているわけではないが、椅子が不足して困っているという状況ではないと認識している。
- 議長 人件費・燃料費が高騰する一方で人口減少により利用者も減少するので、地域バスに関する市の財政負担額が高くなってしまいが、どのような評価の認識か。
- 事務局 費用面や利用者数の数値を評価指標としているが、地域バスについては、地域の移動を支えているという側面も評価であり、必ずしも評価指標の数値だけで判断するべきではないと考えている。
- 委員 昨年12月に愛知県のタクシー運賃を3年ぶりに値上げした。全国的な傾向として、バス業界と同様タクシー業界も運転手不足が続いているため、当面の間3年程度のスパンで増収率を10%前後でできるだけ低く抑えた形の運賃改定を行っていく流れになっている。今後も運賃改定を行った場合、地域タクシーの利用者が増えると市の財政負担も増えるという傾向は続いていくと思われる。
- 議長 タクシー運賃が値上がりする一方で利用者負担額が変わらなければ、当然市の負担は増えていく。利用者負担額についても今後検討する必要があるかもしれない。
- 委員 運転手不足に対して各事業者で努力されている中で、地域タクシーの利用者が右肩上がりが増えていくと、タクシー事業者の対応にいずれ限界が来る可能性がある。各事業者の現状なども加味して、将来的には利用回数の設定や利用者負担額の見直しなどを検討する必要があるかもしれない。現状、地域タクシーの運用状況や将来に向けて考えていることがあれば伺いたい。
- 事務局 利用者負担額については、今後の市の財政状況を踏まえて検討していく。地域タクシー4地域のうち1地域のみ利用者数が増加している状況にある。基幹バス・地域バスの再編を行っていく中で、地域タクシーの利用者負担についても考えていきたい。
- 委員 都会の方ではタクシードライバーを目指す人が増えているという報道を見たことがある。豊田市とは事情が違うと思うが、採用状況はいかがか。バス運転手についても、外国人や女性の採用状況を伺いたい。
- 委員 東京ではタクシードライバーの所得が増えており、それに関するマスコミの報道を見た若者の応募が増えてはいるが、著しいものではない。就職説明会などを開催し人材確保に努めているところだが、一事業者で採用の機会を設けることは難しいと感じている。愛知県タクシー協会主催で説明会を開催したり、自治体の協力を得て会場を確保したりしている。西三河地区は愛知県下の中でもタクシーの需要が多い地域ではあると思うので、今後も、公共の足としてできるだけ対応できるように努めていきたい。
- 委員 バスの運転手についても深刻な状況は続いている。外国人の採用については現地へ赴き、現地でバスの運転をしている方など即戦力となる人材を採用している。女性ドラ

イバーについても採用が増えてはいるが、ベースの底上げまでには至っておらず、今後数年で乗務員の中で最も多い世代が離職してしまう状況を危惧している。

- 議 長 資料 2 ページの次年度に向けた課題や取組の中に、「利用状況や地域ニーズに応じた効率的な運行体制の構築を検討する」という記載がある。本日皆様からいただいた御意見はこの文言を根拠に検討していくということで良いか。
- 事務局 その予定である。

«協議結果：承認»

(2) 香嵐溪渋滞対策における令和 7 年度の状況報告及び令和 8 年度取組について<報告>

- 事務局 【報告 1】に基づき説明。
- 委 員 香嵐溪オーバートゥーリズム対策会議は年 1 回の開催か。また、その会議の中で具体的な対策の内容を議論しているのか。
- 事務局 対策会議は年 2、3 回開催している。会議の中で出た案や事務局が提案した案について議論しており、事業化できたものもある。
- 委 員 対策会議で議論するのは、紅葉シーズンに特化した内容か。それとも年間を通じた観光全体に関する内容も含むのか。
- 事務局 香嵐溪の観光全体ではなく、11 月のもみじまつり期間中について議論する会議である。主に渋滞対策の検討や地域住民の生活上の不便を解消することを目的として開催している。
- 議 長 昨年度の香嵐溪もみじまつり開催期間中の来場者数はどれくらいか。
- 事務局 昨年度の入場者数は 57 万人である。
- 議 長 香嵐溪では本当にオーバートゥーリズムが起こっているのか。話を聞いていると香嵐溪へ向かう道が渋滞していることだけが問題になっているように聞こえる。香嵐溪を訪れたことがあるが、人が溢れて歩くのが危険だとか商店に入れないなどの逼迫した状況にまではなっていない印象がある。果たして来訪する観光客数は香嵐溪のキャパシティを超えているのか。
- 事務局 実際のところは限りなく限界に近いがまだ超えてはいないという状態だと認識している。地域住民は昔からもみじまつり期間中は外出を控える行動をとっており、混雑するのは例年のことだと受け入れている側面もある。ただし、昨年度から改善基準告示の適用に伴い、バス運転手の休憩時間を確保するため、おいでんバスを運休せざるを得ない状況が生じてきた。そのためオーバートゥーリズムが発生するかもしれないと懸念している。一般的なオーバートゥーリズム対策としては入場制限を設けるなどが考えられるが、そこまで踏み込んだ対策をするかどうかも含めて今後検討していく必要がある。
- 議 長 バスの遅延に関する目標値を設定しているが、利用者目線で考えると 50 分の遅延というのは許容できないのではないのか。それを目標値として良いのか。
- 事務局 通常のバス利用者からすると、おそらくバスに乗らないという行動になるのではないのかと思う。一方で、自家用車で香嵐溪を訪れようとするバスと同様かそれ以上の所要時間がかかることが想定されるので、観光客にとっては許容できる範囲ではないのかと考える。
- 議 長 現実的には非常に厳しいとは思いますが、5 年間の目標として掲げるのであれば、せめて通常のバス利用者が許容可能な時間を目標として設定し、努力していくべきではないか。問題の解決を諦めているように感じるので、その姿勢のままでは状況は改善していかない。
- 事務局 貴重な意見として参考にさせていただく。
- 議 長 GTFS を整備して運休や臨時運行の情報を反映するのは当然として、遅延情報がリアルタイムで分かるように GTFS リアルタイムを提供することはできないのか。外国人を含む観光客は、主にグーグルマップで検索して情報を得るので、そこで遅延情報がリアルタイムで分かると良い。
- 事務局 現在既にグーグルマップ上でリアルタイムに情報を提供している。バスロケーションシステムで提供しているリアルタイム情報が、グーグルマップにも連携して反映される仕組みになっている。

(3) 香嵐溪もみじまつり期間におけるとよたおいでんバスの運行変更について (①旭・足助線 ② 稲武・足助線 ③さなげ・足助線) <協議>

○事務局 【協議2】に基づき説明。

○議 長 今年度新たにタクシーの活用を試みることだが、どの区間を走行する想定か。

○事務局 猿投駅から迂回路を通して足助地区内に入っていくルートを想定している。

○議 長 西中金までバスが運行するので、そこから足助までをタクシーでつなぐという活用方法にはしないのか。

○事務局 その案も議論はしたが、バスとタクシーでは輸送人数のギャップがあり、バスの代替手段としては難しいと考えている。今回はバスとは別の移動手段という整理をした。

«協議結果：承認»

以上